

指導事例

小学校

3年生

自他の生命尊重

「世界に一つだけ ～私の命、みんなの命」

3-(2)生命尊重

道 徳

1 / 1 時間扱い

1 題材名 「世界に一つだけ～私の命、みんなの命」

2 題材について



掛け替えのない命

近年、事故や災害、紛争、戦争など人の生死に関わる様々な情報がリアルタイムで提供されたり、様々なゲーム機器等では、簡単にリセットすることで命を復元できたり、命を軽々しく、あたかも再生可能なものとしてとらえている子もいるという。

すべての命が掛け替えのないものであり、命あるものを慈しみ、敬い、尊ぶことは、人間尊重の基本的な精神であり、豊かな人間性を培う礎である。

そこで、生命に関する身の回りの具体的な事象を取り上げ、自分の性、命や健康、安全について実感をもってとらえさせることが必要である。特に自己の誕生を見つめ命の連続を知るとともに、死についても見つめることが大切であると考え、本題材を設定した。

3 目 標

- (1) 自他の生命を尊重し、大切にしていこうとする実践的な態度を身に付ける。
- (2) 自他の生命が多くの人々の愛情によってはぐくまれ、掛け替えのないものであることを実感する。

4 教科、領域等の内容的関連

- (1) 道 徳 「家族愛」
- (2) 理 科 「ちょうを育てよう」「植物を育てよう(1)(2)」「植物の育ちと花」
- (3) 学級活動 「自分の体を見つめよう」「赤ちゃん誕生」
- (4) 体 育 「毎日の生活と健康」

5 指導展開例

	教 師 の か か わ り	子供の思考の流れ・学習活動	留 意 点
導 入	命に関する実態調査の結果を提示し、学習への意識付けをする。 昆虫や生き物を死なせてしまったことがないかどうかを聞く。	命に関する言葉から、自分もつ命に対するイメージを思い起こす。 ・私と同じことを考えている人がいる ・こんな考えをもっていた人もいるのか 自分の今までの生活を振り返る。 ・ のお世話を忘れて死なせてしまったよ ・おたまじゃくしを死なせてしまったよ	・事前調査より、生命に関する言葉のイメージを提示する。(資料2) ・自宅や生活科などでの飼育や栽培の経験を思い起こせるようにする。

<p>導 入</p>	<p>資料「ヒキガエルとロバ」を読み ましょう。どんな感想をもちま したか。</p>	<p>資料を読み、命の大切さ、すばらしさに ついて考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アドルフたちはひどいことをするな ・ロバさんはすごいな 	<ul style="list-style-type: none"> ・読み物資料を配布 する。(資料1)
<p>展 開</p>	<p style="text-align: center;">みんなが、一つずつ持っている命を見つめてみよう。</p> <p>アドルフたちは、どんな気持ち でヒキガエルに石をぶつけてい たのでしょうか。</p> <p>ロバは鞭で何度も打たれたのに なぜ道を変えたのでしょうか。</p>  <p>通り過ぎたロバとヒキガエルを 見ていたアドルフたちは心の中 でどんなことを思っていたでし ょう。</p> <p>みなさんも自分たちの命を見つ めてみましょう。</p> <p>みなさんの命がどのように生ま れ育てられてきたか、子供が生 まれたお父さんの、みなさんへ のメッセージを聴いてみましょ う。</p>  <p>心のノート (いきているってど んなこと) を開いてみましょう。</p>	<p>アドルフたちの気持ちを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おもしろ半分に ・カエルぐらい「いいや」と思っていた <p>ロバの優しさや思いやりに触れる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・傷ついてかわいそうだ ・つらかったろうな ・カエルだって懸命に生きているんだ ・絶対助けてあげたい、死なせたくない <p>ロバの命に対する深い思いを見つめる。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <ul style="list-style-type: none"> ・自分たちは間違っていた ・みんな一生懸命生きている ・命はたった一つのものだから ・生き物にはすべて大切な命が ある ・命はお互いに大事に しなくては </div>  <p>メッセージを聞き、自他の命の大切さ、 すばらしさについて思いを深める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みんなが支えてくれたんだなあ ・こんなこともあるなんて驚いたなあ ・私たちの家族の人もきっと同じ気持ち なんだな <p>自分の慈しみ、はぐくまれている命を見 つめ、よりよく生きる希望や願いをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・命を大切にこれからいろいろなこと に挑戦したいなあ。 ・多くの人が見守ってくれているのだな あ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・安易な気持ちに気 付かせる。 ・ロバの置かれてい る困難さや苦しさ に十分共感できる ようにする。 ・赤ちゃんの写真を 提示し泣き声、笑 い声などを聴かせ る。 ・赤ちゃんの映像と CD(音声録音)を 掲示する。 (資料3) ・自分の命と赤ちゃんの命を重ね合わ せて思いをふくら ませることができ るようにする。 ・子供の思いの傾向 によっては「心の ノート」P74、75 (家族愛)の利用 も考えられる。
<p>終 末</p>	<p style="text-align: center;">命は、みんなに支えられ、守られ、生かされているものなんだね。自分の命もみんなの命も、もっともっと大切にしていきたいなあ。</p> <p>今日の学習の感想をまとめま しょう。</p>	<p>道徳メモにそれぞれの思いを書きとめる。</p>	

6 資料

【資料1】ヒキガエルとロバ

雨あがりのはたけ道。学校帰りのアドルフとピエールたちの前に、ヒキガエルが一ぴき飛び出してきた。

「うわっ、なんだ！」

「気持ち悪い！」

「ヒキガエルだぞ！」

「石をぶつけてやれ！」

子どもたちは口々にそうさげびながら、ヒキガエルめがけて、小石を投げつけ始めた。

「あたった、あたった。」

「おい、もっと石を持って来いよ。」

アドルフに言われて、ピエールたちは、道ばたから石を集めてきた。

ヒキガエルは、子どもたちに追われながら、どろんこ道にある車のわだちへころがりこんだ。わずかに水がたまつて緑色をしたそのくぼみの中で、ほっとした気持ちになったようだ。ゆっくりと、からだにつけられたきずをあらいだめた。

ちょうどそのとき、としをとったロバが荷車を引いてやって来た。耳も聞こえず、目もよく見えないようなやせたロバだった。荷車にも、せなかにしよって大きなかごにも、野菜がいっぱいつまれていた。荷車に乗った農夫から、たえずピシリピシりとむちで打たれていた。きつと一日のつらい仕事と長い道のりにつかはて、へとへとになって自分のうまやにかえっていくとちゅうなのだろ。一步一步ふみしめるようにどろんこ道を進んできた。

「アドルフ、ヒキガエルのやつ荷車にひかれるぞ。」

「そっちを見ているほうが面白そつだ。」

アドルフたちは、見守った。

ガタン ゴトン ガタン ゴトン。くぼみにロバが近づいて来るが、坂道にあるわだちのあとがでこぼこでなかなか前に進まない。

農夫は、ぐいぐいとたづなを引っ張り、むちを打ちつづける。

「ハア ハア…。」

ロバの息があらくなる。一步一步近づいてきたロバは、そのときふと、自分の足もとできずをおってじっとしているヒキガエルに気がついた。

くぼみの中のヒキガエルは、もう動く力もないようだった。ロバは、目をとじている小さな生き物に鼻を近づけ、友だちを見るようなやさしい目でじっと見つめつづけていた。

農夫は、急に前に進まなくなったロバにはらをたて、何度もむちを打っている。

「ヒヒーン！」

とつ然ロバはいなくなると、グリーンと足をふんばった。自分に残ったすべての力をしぼるかのように、歯をくいしばって足に力を入れたのだ。せおつたかごが横にふられた。重い野菜がたくさんつのである荷車も少し動いた。ロバの顔は、さらに苦しそうになった。

そしてついに、車輪はゆっくりと動きだし、新しいわだちをつけていったのである。荷車は、ヒキガエルのいるくぼみの横を、ガタン ゴトン、と大きな音をたてながら通り過ぎたのだつた。

ヒキガエルは助かった。

それを見ていたアドルフの手から、石が足もとに静かにすべり落ちていった。ピエールたちも何も言わずに立っている。

やがて、荷車の音もロバのうれしそうないなきも遠くになっていった。子どもたちは、くぼみの中で小さく息をしているヒキガエルと、遠く去っていくロバのすがたを、いつまでもいつまでもながめていた。

出典 道徳教育推進指導資料（指導の手引き） 3

小学校 読み物資料とその利用

「主として自然や崇高なもののかかわりに関すること」

文部省（現文部科学省）より

【資料2】子供たちがもっているイメージ

命 (いのち)	たんじょう	生きる	死 (し)
<ul style="list-style-type: none">○大切○一人に一つ○生きること○働くこと	<ul style="list-style-type: none">○生まれる、生きる○たんじょう日○新しい生命○うれしい、きせき	<ul style="list-style-type: none">○うれしい○しあわせ○たのしい○かなしい	<ul style="list-style-type: none">○かなしい○なくなる、消える○こわい、いや○さびしい

【資料3】メッセージの例

①誕生と出会い、その喜びなど

君を初めて見たのは、電話があって急いで駆けつけた真夜中の病院でした。君はお母さんの横でタオルに包まれて、小さな寝息をたてながら、すやすやと眠っていました。指を君の手に近づけると、君はとっても小さな手で、お父さんの手を握り返してくれました。お父さんの中には、今まで感じたことのない大きな大きな喜びが体中に広がっていきました。お父さんは、お母さんと共にこの先、どんなことがあっても、君を守っていこうと固く心にきめた一瞬です。

君の誕生は、お父さんとお母さんの人生の中で、本当に最高の喜びでした。

②病気になったとき

ところが三日後、君は命にかかわるとも重い病気にかかってしまいました。今までいた病院から、救急車でとても大きな病院に運ばれました。何人ものお医者さんや看護師さんが君の周りを取り囲んで何とか助けようと必死に治療していました。君の小さな体には何本もの細い管がつけられ、いろいろな機械に囲まれていました。

お父さんとお母さんは心配で、毎日、毎日、夜も眠れないほどでした。何とか元気になって欲しい、自分の命と君の命を交換できるなら、喜んでそうしようと思いました。お医者さんたちの懸命な努力で、君は少しずつ元気になっていきました。一ヶ月後、やっと退院することができました。そのときの写真は、お父さんとお母さんの大切な宝物になりました。

③みなさんへの願い

みなさんに伝えたいこと、わかってもらいたいことがあります。

何より命の大切さをわかってください。君たちの命は、たった一つです。そして、一度失うと決してもどには戻らないものなのです。

もし、病気やケガなどで、命を失うようなことがあれば、みなさんのおうちの人は、深い悲しみにくれることでしょう。ですから、病気になったらいやがっても、すぐに病院に連れて行くでしょう。また、危ないことをしたら、きつく注意もします。そして、何より自分の命は自分のものだけではないということを知り、大切に大切にしてほしいと心から願っているのです。

④様々な命の大切さと感謝

また、もう一つ、わかって欲しいことがあります。

命があるのは、みなさんだけではありません。お父さんやお母さん、そして周りの人みんな、そして動物や、植物などにもあるのです。それらの命がすべて支え合ってみんな生きているのです。人の命は動物や植物の命を食べ物としていただき、そのおかげで生きているのです。

そのことを決して忘れず、感謝の気持ちをもってください。